

シニアネットとともに学び合う子どもたち ～生涯学習センター・シニアネットとの交流活動を通して～

半田市立亀崎小学校 5年担任 丹波信夫
nec00039@lec.netnfu.ne.jp

キーワード シニアネット，生涯学習センター，ボランティア

1. はじめに

生きがいを求めているシニアの方々の中には生涯学習としてネットワークコンピューティングを学び、自らのスキルをあげている方が多くいる。また、学校教育現場ではこれらシニアの方々の豊富な経験に基づいた考え方にふれる機会が少ない。そこで、シニアの方々と小学生がお互いに学び合えることができないかと考えた。

小学校の教育現場においては、情報専科教員・情報 T.T 教員の配置がむずかしい学校が多い。地域においてボランティア的にネットワークコンピューティングについて子どもたちに支援をしたいという方との連携は欠かせないものと考えられる。

まず、地域の生涯学習センター・シニアネットに登録されている方々に、ボランティアで小学校でおこなわれる正規の授業の中に入って交流授業をしていただける方はいませんかと募集した。

そうしたところ、17名のシニアの方がボランティアに応募してくださり、シニアネットの方々と小学校児童の交流授業を展開していく運びとなっていく。

地域の生涯学習センター、シニアネットに参加するシニアの方々、地元の公立小学校、この3者による協力体制の確立は当地区においては初めてのものである。

2. 実践の内容

2.1 対象

小学校5年生(3クラス) 総合科

2.2 ねらい

シニアネットの方々と交流を通して、ネットワークコンピューティングの基礎を学び、シニアの方々の豊富な経験に基づいた考え方にふれ尊敬の念を持つことができる。

2.3 準備・打ち合わせ

まず、日本福祉大学生涯学習センターのシニアネットに登録・参加されているシニアの方々からボランティアで小学生と交流を希望する方を募集した。生涯学習センターの職員さんにも協力をしていただき、シニアネットのメーリングリストに募集案内を出したところ、17名の方が応募してくださった。

9月8日、日本福祉大学において、ボランティアに応募してくださったシニアの方々・生涯学習センター職員・小学校職員の第1回打ち合わせ会をおこなった。ここで、小学校からこれからの交流授業についての提案をおこない、シニアの方々の日程調整をおこなった。小学校側の提案は次のようなものであったがすべて受け入れていただいた。

- ・ボランティアの方々には小学校における情報教育の授業の補助・支援をしていただく。
- ・授業内容は「電子メール」と「web ページ作り」の2単元である。
- ・コンピュータの授業は各クラス週1時間である。5年生3クラスのこの授業に、それぞれ数人ずつのシニアの方が入っていただく。
- ・交流授業の終了後も電子メールやミーティングを通して交流をはかる。
- ・親や地域への情報教育の理解を得るために「PTA コンピュータ講座」を開き、その支援をお願いする。
- ・連絡調整・打ち合わせ用にメーリングリストを立ち上げる。
- ・授業日と入っていただくボランティアの日程をweb に up して調整をはかり共有化する。

2.4 シニアネットとの交流授業

シニアネットと小学生の交流授業は、「メールを出そう」(4時間完了)と「web ページを作ろう」(8時間完了)の2単元として実施した。

1クラスにつき12時間の交流授業であった。最初、シニアの方も子どもたちも緊張していたが、回を重ねていくにつれてお互いの人間関係が出来上がっていき、和やかな雰囲気の中で交流授業が展開していった。

「メールを出そう」では早くもシニアのみなさんに助けられた。まず最初におこなった子どもたちのアカウントの発行・登録作業はひとりひとりについてパスワードなどの個別指導が必要であり、とても指導者1人では対応しきれないもので



交流授業の様子

E スクエア・プロジェクト成果発表会

あった。しかし、シニアネットの方が数名いてくれたので、子どもたちひとりひとりの相談に対応できた。

また、人生の大先輩であるシニアの方々が語るルールやエチケットの話をはじめ各種アドバイスはとても重みがあるものであり、子どもたちも熱心に聞いていた。

子どもたちはメールが出せるようになると、さっそくシニアの方のメールアドレスを聞いてメールの交換を始め出した。このメール交換は現在も続いている子がいる。

「web ページを作ろう」では、子どもたちがデジタルカメラを持って取材してきた地域の伝統産業についてのページを作った。この「web ページ作り」ではひとり 1 ページとしたので、画像の取りこみからひとりひとりに対応した指導が必要であった。

シニアの方々も小学校で使う web ページ作成ソフトを使うのは初めてであり、使いながら小学生にアドバイスを与えている姿が見られた。

おかげで 5 年生全員が自分の取材してきた伝統産業を web ページにまとめて発表することができた。

児童の感想： ぼくが、こまっているとシニアの さんが「どうしたの？」とやさしく教えてくれました。自分のページができたのは さんのおかげです。とてもうれしかったです。メールもすぐに返事をくれてうれしかったです。これからも さんとメール交換を続けたいです。



シニアの方のアドバイス

2.5 シニアネットへの感謝の会

予定の交流授業を終えた子どもたちの中から、シニアネットの皆さんをご招待してシニアネットのみなさんに感謝する会を開きたいという声があがった。そこで、各クラスから 2 名ずつの実行委員を出して、「シニアネットのみなさんに感謝する会」の実行委員会を結成した。実行委員会において感謝する会の企画・運営をすべておこなった。

感謝の会では、歌をいっしょに歌いゲームをいっしょにおこない楽しんだ。その後、感謝のメッセージカードをプレゼントした。シニアネットへの感謝の会が終わった後、シニアの方々と子どもたちの双方からもっと交流がしたいとの希望が出てきた。

感謝の会の後、シニアの方からいただいたメールの一部

今日は、楽しい思い出をいただきありがとうございました。学校に通うことがとても楽しみになっていましたので皆さんにお会いできないのが残念です。でも、メールがありますね。メールでお会いしましょうね。

皆さんの進歩が早いので、私が勉強させていただくことがたくさんありました。

亀小の皆さんと交流できる機会が与えられ、私はとてもしあわせ者です。

皆さんの笑顔を頭に浮かべて書いています。また、書きますね。



感謝の会 開会式

素晴らしい企画そして進行に感心しました。短い時間にぎっしり詰まった内容にあっというまの 1 時間でした。

感動に目頭が熱くなったのは私 1 人ではなかったようです。今、学校が崩壊しているとか聞きますが、そんな事は微塵も感じさせない素晴らしい先生に素直な生徒さん達でした。本当に有難うございました。

3 . まとめと今後の課題

シニアネットの方々にとっては、自分たちの技術を生かせる場が得られ、子どもたちとふれあうことにより生き生きと活動していただいたように思う。全員の方が学校へ行くのが楽しみであると答えられた。

小学校においては、情報教育を進めていく中でシニアネットの方々の支援により個に応じた指導を進めることができたことと、シニアの方々の考え方や意見を知ることができたのは大きな成果である。

今回の実践がもたらした地域の生涯学習センターやボランティア団体との学校教育における連携の仕方は他地域、他校においても実施可能なものである。すでに数件お問い合わせをいただいているが、その地域におけるボランティアの育成が大きな課題になると考える。

今後においては、高学年などで、シニアの方々と学校にある機器を活用したデジタル作品の共同制作などをおこなうことにより、今度はシニアの方々に機器の使い方などをアドバイスするような活動に発展させたいと考えている。



授業後も楽しくおしゃべり